

第99期 報告書

平成21年6月1日～平成22年5月31日



 小津産業株式会社



代表取締役社長
中田 範三

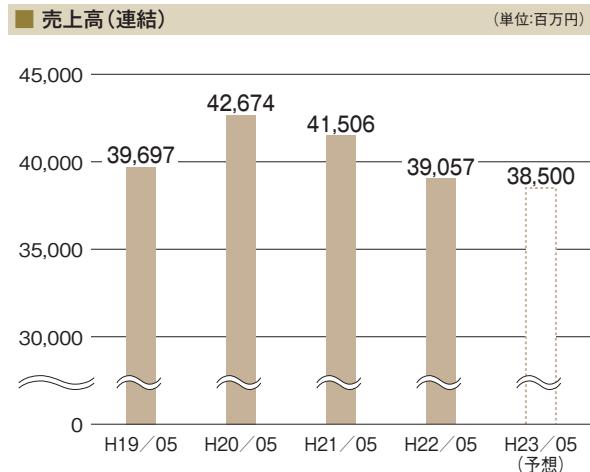
伝統力、革新力、付加価値力の3つの柱を機軸に顧客満足のソリューションを提供しています。

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

ここに第99期(平成21年6月1日～平成22年5月31日)報告書をお届けするにあたりまして、謹んでご挨拶申し上げます。

当社グループは、『伝統とは継続的な開拓の歴史』との認識のもと、和紙を祖業としつつ家庭紙や不織布、さらには野菜事業など既存の分野や製品に捉われない事業展開を行うなど、消費者ニーズの変化に対応しながら顧客満足のソリューションを提供する提案型機能商社として、株主価値の増大を図り、企業価値を高めてゆくことを基本方針としております。

企業間競争がますます厳しくなる環境下においても、業歴の中で培った伝統力、革新力、付加価値力の3つの柱を機軸に新しい付加価値を創出し、社会へ提供することによって顧客の信頼を勝ち取れる体制構築を目指してまいりました。

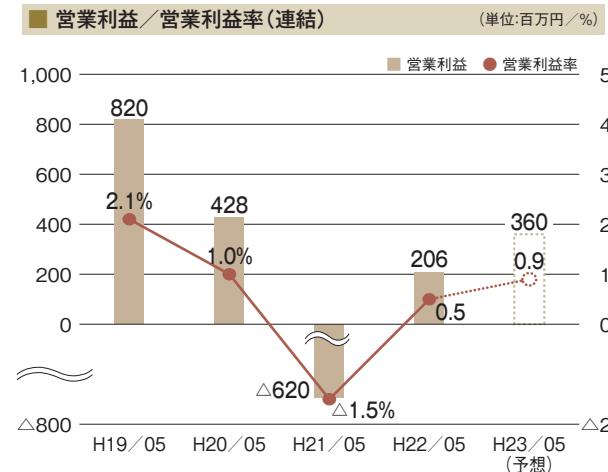


厳しい経営環境の中、全社を挙げた取り組みにより、最終利益を確保しました。

当期における国内の経済は、国内外の景気刺激策の効果により需要の一部や輸出に回復の動きが見られ、企業収益にも改善が見られましたが、需給ギャップによるデフレ進行や円高傾向など、先行きに対する懸念は依然として払拭できないまま推移しました。

このような状況のもと、当期における連結売上高は390億57百万円(前期比5.9%減)となりましたが、付加価値の高い製品の提案を行うことによって売上総利益率の向上に取り組み、またコストの低減に努めました結果、連結経常利益は2億38百万円(前期は6億46百万円の経常損失)、連結当期純利益は1億4百万円(前期は7億39百万円の当期純損失)となり、利益を確保することができました。

当社グループを取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況でございます。平成23年5月期の連結業績予想につきましては、売上高385億円、経常利益3億円、当期純利益60百万円を想定しております。

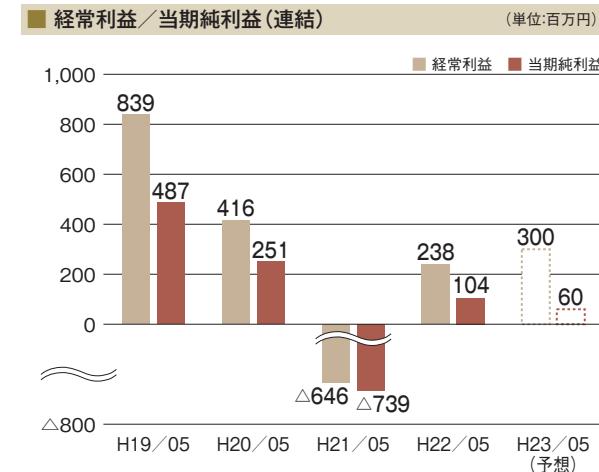


中長期的な成長を視野に入れ、企業価値の向上に努めてまいります。

当社主力の不織布事業におきましては積極的に海外展開を推進し、拡大し続ける海外需要に応えるとともに、グローバルな視点で新規市場の開拓を行ってまいります。併せて、新製品の開発や加工生産拠点の効率化にも注力し、不織布ビジネスの一層の強化を図ってまいります。家庭紙・日用雑貨事業におきましては、取引先への物流サービスのさらなる向上に努めるとともに、物流の効率化などのコスト削減に引き続き取り組み、収益改善を行ってまいります。

当社グループにおきましては、平成23年5月期から平成25年5月期までの3ヵ年の中期経営方針を定め、企業価値の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 中田 範三



グループの力を総結集し、さらなる成長を 3カ年中期経営方針として4つの重点戦略を策定

グローバルビジネスの 展開

当社は、拡大し続ける海外需要に応えるために新しい組織である「海外営業部」を開設いたしました。不織布事業における既存ビジネスであるエレクトロニクス分野のさらなる拡大のほか、国内において既に取扱い実績のある、コスメティック関連製品やメディカル関連製品の積極的な海外展開を行ってまいります。当社の社員一人ひとりが、よりグローバルな視点でお客さまの需要を見出し、市場の開拓を行っていくことを目標としております。海外展開の一環として平成23年2月に、中国・上海に現地法人「小津産業(上海)貿易有限公司」の設立を予定しております。これは、市場拡大が著しい中国および東南アジア地域における取引を円滑に行うために開設するものです。

グリーンビジネスの推進



連結子会社である日本プラントシーダー(株)は、野菜および花卉の播種用テープ(シーダーテープ)の製造・販売において、国内産の安全な農作物の需要にお応えすることにより、堅調な成長を遂げてまいりました。また、「日本橋やさい」事業は平成20年の開設以来、経済産業省および農林水産省が推奨する「植物工場」を運営する新事業として研究を続けてまいりました。同事業は数々のマスメディアに取り上げられるなど、その販売拡大の機会も日増しに大きくなってまいりました。これら食を安全に供給する事業を、当社グループの中でグリーンビジネスと捉え、特に野菜の消費者ニーズに対して新しい商品や技術、サービスを提供することを推進いたします。

4つの重点戦略

不織布ビジネスの強化



当社の核である不織布ビジネスは、これまで主にエレクトロニクス分野、メディカル分野、コンシューマー分野向けの商材を取り扱ってきました。しかし当社は、「単に不織布を販売するだけでなく、これを加工することによって新たな製品を創り出せる商社」としての特殊な機能を向上すべく、今後の3カ年で新規製品の可能性を追求いたします。また、国内に2ヶ所、海外に1ヶ所ある不織布製品の加工場の機能強化を図るため、設備増強や効率化を図り、より一層の利益率向上を目指します。先に掲げたグローバルビジネスの展開を進めるために、海外新加工場の設置なども視野に入れて前進してまいります。

家庭紙・日用雑貨ビジネスの 機能、サービスの充実



当社グループの売上高の最大規模を占める事業はアズフィット(株)が営む家庭紙・日用雑貨ビジネスです。同社は首都圏エリアを中心に、ティシュペーパー・トイレペーパーおよび日用雑貨の卸売業として一翼を担っています。これらの商品は人々の普段の暮らしに欠かすことのできないものであり、私たちはその重要な役割を滞ることなく果たし、商品を確実に流通させることが責務であると考えております。同社では、今後3カ年においてこの機能・サービスのさらなる充実を図るため、ティシュペーパー・トイレペーパーを中心とする家庭紙流通のプロフェッショナルとして、首都圏エリアにおける物流拠点や配送の合理化を進め、一層の業績の向上を図ってまいります。

新「神奈川愛川センター」の建設に着工しました。

連結子会社であるアズフィット(株)は、平成22年2月、新しい物流センターとして「神奈川愛川センター」の建設着工をいたしました。

同センターは、平成21年7月に発生した火災により全焼し、株主の皆様およびお取引先の皆様には大変なご迷惑をおかけいたしましたがおかげ様をもちまして、このたびようやく再建の運びとなりました。

神奈川愛川センターの建設面積は6,800.15㎡、延床面積は7,470.43㎡となり、同社のセンターの中では最大規模のものとなります。

竣工は平成22年10月、稼働は翌11月を予定しており、これに伴い首都圏エリアのセンターと統廃合を進めるなど、配送システムの一層の改善、効率化を図り、お客様にとって最適な物流を提案いたします。

新「神奈川愛川センター」は同社の物流構造の改革を担う期待の新センターです。



建設現場の様子

神奈川愛川センター

所在地 神奈川県愛甲郡愛川町
建設面積 6,800.15㎡
延床面積 7,470.43㎡
建物構造 鉄骨造 地上2階建

Column

日本橋やさいが多くのメディアに取り上げられました。



日本橋やさい府中工場では、現在8品種の野菜を栽培し、主に外食産業と百貨店へ出荷しています。工場働く従業員は常時10名ほど。当期も多くのメディアに取り上げられ、様々な方面からの注目が集まる事業に携わっていることに責任と喜びを感じ、「安心・安全な野菜をお客様に提供する」という使命感に燃えて、日々、作業に臨んでいます。



日本橋やさい工場長
近藤 貴之

今後の展開

収穫効率を増加させるため、栽培技術の向上を目標の一つとして研究に取り組んでいます。また、営業部門と連携を図り、消費者のニーズを捉えて、新種の野菜の栽培にもチャレンジしていきたいと思っております。

様々な経験や知見を集め、付加価値のある製品をお客様にお届けします。

「新事業開発室」は、すべての営業部門間の情報交流と、小津グループが持つ様々な業態の販売先に展開できる製品の開発を担う専任部門です。

単に製品を販売するだけでなく、加工することによって新たな製品を創り出せる商社としての特殊な機能を発揮すべく、日々取り組んでいる姿をご紹介します。



step 1

市場を知る

今、市場で何が求められているのか。それを自らの肌で知ることが必要です。

お客様の生の声を聞くため、当社製品が使用されている現場を回ります。お客様の声を多く集められることが長年培ってきた信頼の証であり、小津グループの財産です。



展示会にてお客様の声を集めます



step 2

知見を集める

課題を解決するために、社内のノウハウを集積します。

社員一人ひとりが不織布、紙のプロフェッショナルです。多くの社員と意見交換し、お客様や市場の要望に応える製品を企画します。



社内で意見交換をします

step 3

ネットワークを活かす

長年培ってきた仕入先との関係を活かし、製品に反映させます。

仕入先とのネットワークは極めて重要。存在価値のある製品を創り出すには、仕入先の協力を欠かすことができません。



社外でのプレゼンの様子

step 4

原点に回帰する

製品をお客様にお届けすることがゴールではなく、それがまた次のスタートです。

お客様の喜ぶ顔が私たちのエネルギー。未永く愛されるような、新たな製品の開発のため、日々お客様の声を聞いてまいります。



お客様の声に応じて生まれた新製品「検知パン」...食品・医薬品への混入を防ぐため、金属探知機やX線探知機に反応する絆創膏です



中村 高章 新事業開発室 課長

1989年の入社以来、当社の不織布部門(エレクトロニクス、メディカル、コンシューマーの全分野)を経験。その幅広いネットワークと持ち前のバイタリティを活かし、さらなる飛躍を目指します。

VOICE

小津グループには、その他にも様々な「仕事の現場」があります。そこで日々活躍する社員の声をお届けします。

オツテクノ株式会社 係長 青木 史子



Q.小津グループの「ものづくり」で大切にしていることは?

A.オツテクノ(株)では不織布の断裁や折加工、包装を行っています。メーカーの製造状況や季節により、不織布の状態は必ずしも単一なものではありませんが、お客様には安定した品質の製品を提供していかなければなりません。そのため長年の技術や経験を活かして、まさに職人技ともいえる製品が出荷されるまで、毎日気を配っています。

アズフィット株式会社 第一営業部 営業第一担当 課長代理 宮澤 智也



Q.現在、どのようなことに取り組んでいますか?

A.アズフィット(株)は家庭紙・日用雑貨の卸売販売をしています。得意先である小売業様と、仕入先様との間に立ち、販促計画を立案し、それに基づいて正確に商品をお届けすることが私の主な業務内容です。また現在、新たな柱となる事業を立ち上げるためのプロジェクトに参画し、商品開発など今までになかった取り組みにも励んでいます。

日本プラントシーダー株式会社 営業部 主任 石川 将吉



Q.小津グループ発展に必要なことは何だと思えますか?

A.近年は食の安心・安全への興味が高まっていて、農業への注目も集まっています。食育や家庭菜園への関心はその表われではないでしょうか。私は常に時代の変化を先取りし、農業に携わるお客様のご要望に対応するために、準備を怠らないよう心がけています。お客様の信頼を基に、グループ全体の発展に繋がっていきたくと考えています。

小津産業株式会社 海外営業部 シンガポール支店 Valent Cheah



Q.小津グループ発展に必要なことは何だと思えますか?

A.I am doing sales and marketing, replenishment stocks and some admin stuff in the Singapore Branch. Every company has its own profit and losses concern and it will reflex in the annual report. In the present condition, ever the company has high revenue but it might not have in return. The most important thing is to cut down losses in order to have a better expansion and future financial.

私は営業やマーケティング、在庫管理、またシンガポール支店における事務を行っています。すべての企業は、年次報告書に反映されるような損益を最重要事項と考えています。現況として当社の売上は大きいのですが、利益が十分であるとは言えません。よりよい事業展開や将来の財政のため、当社に重要なことはロスを抑え、利益を追求していくことだと思います。

エレクトロニクス分野では欠かせない存在

小津産業のクリーンルーム用ワイパー

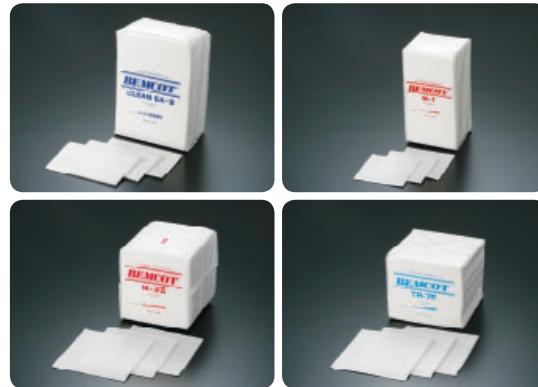
ベンコット™シリーズ

当社の不織布製品は、半導体やフラットパネル、太陽電池や光学機器レンズなどの先端技術を要するエレクトロニクス製品の製造工程において、不可欠な産業用資材となっています。なかでも「ベンコット」シリーズは、先端技術工場のクリーンルーム用ワイパーとして高い支持を得ています。

ベンコットとは

ベンコットとは、世界で唯一のセルロース連続長繊維不織布ベンリーゼから作り出される、クリーンルーム用ワイパーです。セルロース100%で構成されるベンリーゼは、コットンの種子のまわりについているうぶ毛の部分「コットンリントー」を原料としています。世界各地で生産されるコットンリントーは、宮崎県延岡市にあるISO9001の認証を取得した工場、旭化成せんい(株)独自の製法によってシート化し、当社グループ会社で最終加工しています。

世界唯一の製法で作りに出されるので、他の素材にはない特長を兼ね備えています。



ベンコットシリーズは、汚れを落とすこと全般に使うことができます。

特に優れた点としては、脱落せんいが少ないことと、汚れを拭いた後のホコリや毛羽立ちが少ないことが挙げられます。また、吸水力が強いので液体などの拭き取りにも威力を発揮します。さらに、コットンが原料なので森林伐採に繋がらず、燃焼時は有毒ガスの発生はほとんどなく、生分解性があり、土中のバクテリアにより分解され土に還元されるなど環境にも優しい製品です。

ベンコットの使用例

エレクトロニクス分野での工場内で、溶剤を付けたベンコットで拭くのが最もポピュラーな使用方法です。

- ・半導体製造工程
- ・液晶パネル製造工程
- ・医療品製造工程
- ・化粧品製造工程
- ・製品搬送用のクッション材
- ・コピー機等メンテナンス
- ・実験器具拭き取り

など

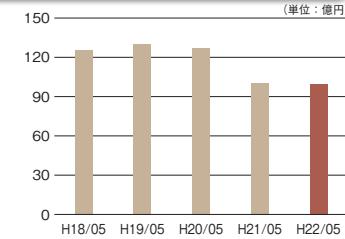
こんなところで活躍しています

事業部門の状況

Segment Information

不織布

売上高
99億74百万円
(前期比0.5%減)

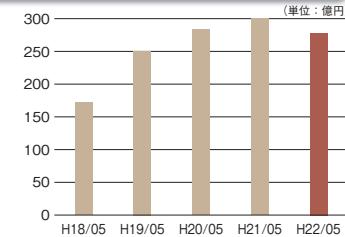


エレクトロニクス、メディカル、コンシューマーの3市場に、様々な種類の不織布製品を提供しております。

エレクトロニクス分野では、中国や東南アジアなどの海外におけるワイパーの需要が回復基調でした。メディカル分野では、ウェットタオルや滅菌製品などの特徴ある製品の販売が好調でした。コンシューマー分野では、産業用資材やフェイスマスクなどのコスメティック関連製品の販売が好調でした。アグリ事業は好調に推移し、これらの結果、売上高は99億74百万円(前期比0.5%減)となりました。

家庭紙・日用雑貨

売上高
278億19百万円
(前期比7.3%減)

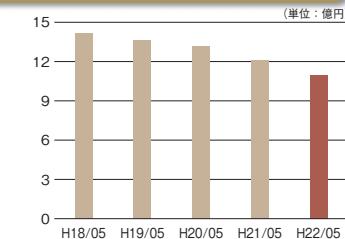


ドラッグチェーンストアやスーパーマーケットに向けたティッシュペーパーなどの家庭紙や日用雑貨を取り扱っております。

ティッシュペーパーやトイレトペーパーの販売価格が下落したことにより売上高は減少し、新型インフルエンザの流行による不織布マスク売上の大幅な伸張などの好要因はありましたが、売上高は278億19百万円(前期比7.3%減)となりました。

洋紙・紙製品

売上高
10億96百万円
(前期比9.7%減)

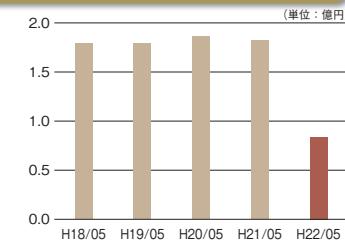


付加価値の高い紙の最終製品や、様々な資材の販売をしています。

付加価値の高い紙の最終製品や様々な資材の販売を行っておりますが、印刷・出版産業の需要回復の遅れから同産業向けの販売が不振であったこと、また各種商品の受注の小ロット化などにより、売上高は10億96百万円(前期比9.7%減)となりました。

和紙

売上高
84百万円
(前期比53.8%減)



和紙文化の継承の役割と、幅広い層のお客様のニーズにお応えする商品とサービスを提供しております。

当社グループの経営資源を主力である不織布事業および家庭紙・日用雑貨事業に集中するため、平成21年12月1日をもって、同部門を関連会社である(株)小津商店へ事業譲渡いたしました。なお、売上高は84百万円(平成21年6月1日から平成21年11月30日までの6ヵ月間の売上高)となりました。

■ 連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当 期 平成22年5月31日現在	前 期 平成21年5月31日現在
(資産の部)		
流動資産	13,400,329	13,415,634
固定資産	6,815,793	7,457,674
有形固定資産	3,846,854	4,508,857
無形固定資産	375,144	441,987
投資その他の資産	2,593,794	2,506,829
資産合計	20,216,123	20,873,308
(負債の部)		
流動負債	7,055,817	7,307,101
固定負債	2,188,808	2,596,717
負債合計	9,244,626	9,903,818
(純資産の部)		
株主資本	10,756,029	10,814,775
資本金	1,322,214	1,322,214
資本剰余金	1,374,967	1,374,967
利益剰余金	8,140,706	8,120,327
自己株式	△81,859	△2,733
評価・換算差額等	215,467	154,713
その他有価証券評価差額金	215,467	154,713
純資産合計	10,971,496	10,969,489
負債純資産合計	20,216,123	20,873,308

ホームページのご案内

当社ではホームページにて、過去の決算短信および株主様向け報告書を掲載しているほか、最新の情報を随時掲載しています。是非ご覧ください。

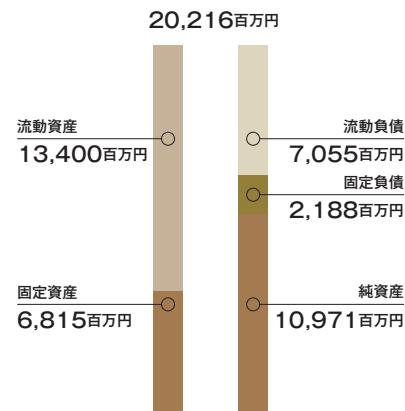
<http://www.ozu.co.jp/>



トップページ

IRページ

■ 資産・負債の状況



■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当 期 平成21年6月1日から平成22年5月31日まで	前 期 平成20年6月1日から平成21年5月31日まで
売上高	39,057,141	41,506,205
売上原価	32,670,952	35,275,696
売上総利益	6,386,189	6,230,509
販売費及び一般管理費	6,180,099	6,851,399
営業利益又は営業損失(△)	206,090	△620,890
営業外収益	122,113	118,406
営業外費用	89,699	144,213
経常利益又は経常損失(△)	238,504	△646,698
特別利益	1,020,295	79,596
特別損失	926,087	30,870
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	332,712	△597,972
法人税、住民税及び事業税	203,115	80,336
法人税等調整額	24,885	60,871
当期純利益又は当期純損失(△)	104,711	△739,180

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当 期 平成21年6月1日から平成22年5月31日まで	前 期 平成20年6月1日から平成21年5月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,129,032	410,822
投資活動によるキャッシュ・フロー	70,443	△642,981
財務活動によるキャッシュ・フロー	△862,464	△520,198
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8,053	△14,556
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	328,957	△766,914
現金及び現金同等物の期首残高	3,574,633	4,341,547
現金及び現金同等物の期末残高	3,903,591	3,574,633

POINT 1
営業活動による
キャッシュ・フロー
について

収入の主な内訳は「税金等調整前当期純利益」3億32百万円、「減価償却費」2億48百万円、「保険金の受取額」8億88百万円、支出の主な内訳は「仕入債務の増減額」3億77百万円であります。

POINT 2
当期純利益
について

市場ニーズに迅速に対応した高付加価値商品の提供を推進すると共に新製品の開発にも注力し、併せて販売の拡大や流通サービスの向上に努めてまいりました結果、利益を確保することができました。

■ 連結株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)

当 期 平成21年6月1日から平成22年5月31日まで	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
前期末残高	1,322,214	1,374,967	8,120,327	△2,733	10,814,775	154,713	10,969,489
当期中の変動額							
剰余金の配当			△84,332		△84,332		△84,332
当期純利益			104,711		104,711		104,711
自己株式の取得				△79,125	△79,125		△79,125
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						60,753	60,753
当期中の変動額合計	-	-	20,378	△79,125	△58,746	60,753	2,006
当期末残高	1,322,214	1,374,967	8,140,706	△81,859	10,756,029	215,467	10,971,496

単体財務諸表

Non-Consolidated Financial Statements

グループ会社の状況

Group Company Information

貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 平成22年5月31日現在	前期 平成21年5月31日現在
(資産の部)		
流動資産	7,227,919	8,014,325
固定資産	9,519,450	9,242,425
有形固定資産	2,461,634	2,561,607
無形固定資産	46,906	56,224
投資その他の資産	7,010,909	6,624,593
資産合計	16,747,370	17,256,750
(負債の部)		
流動負債	3,474,084	3,857,898
固定負債	1,951,838	2,178,660
負債合計	5,425,923	6,036,558
(純資産の部)		
株主資本	11,106,317	11,047,878
資本金	1,322,214	1,322,214
資本剰余金	1,374,758	1,374,758
利益剰余金	8,491,203	8,353,638
自己株式	△81,859	△2,733
評価・換算差額等	215,130	172,313
その他有価証券評価差額金	215,130	172,313
純資産合計	11,321,447	11,220,191
負債純資産合計	16,747,370	17,256,750

損益計算書(要旨)

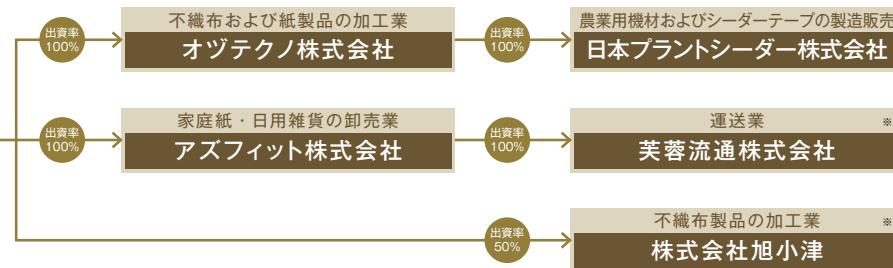
(単位:千円)

科目	当期 平成21年6月1日から 平成22年5月31日まで	前期 平成20年6月1日から 平成21年5月31日まで
売上高	10,791,400	10,647,739
売上原価	8,558,795	8,282,578
売上総利益	2,232,605	2,365,160
販売費及び一般管理費	1,976,836	2,296,905
営業利益	255,768	68,255
営業外収益	94,553	74,399
営業外費用	68,884	84,902
経常利益	281,437	57,752
特別利益	113,454	24,879
特別損失	8,977	8,644
税引前当期純利益	385,914	73,987
法人税、住民税及び事業税	136,000	10,403
法人税等調整額	28,017	57,735
当期純利益	221,896	5,848

株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)

当期 平成21年6月1日から平成22年5月31日まで	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
前期末残高	1,322,214	1,374,758	8,353,638	△2,733	11,047,878	172,313	11,220,191
当期中の変動額							
剰余金の配当			△84,332		△84,332		△84,332
当期純利益			221,896		221,896		221,896
自己株式の取得				△79,125	△79,125		△79,125
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						42,816	42,816
当期中の変動額合計	-	-	137,564	△79,125	58,438	42,816	101,255
当期末残高	1,322,214	1,374,758	8,491,203	△81,859	11,106,317	215,130	11,321,447



無印：連結子会社
 ※1：子会社で非連結・持分法非適用会社
 ※2：関連会社で持分法適用会社

オツテクノ株式会社

(東部加工センター)
 不織布および紙製品の加工工場です。
 工業用、医療用不織布製品の製造を行っている医療機器製造認可工場です。
 (小津産業として医療機器製造認可を取得しています。)



■所在地 埼玉県さいたま市見沼区卸町1-15
 ■資本金 25,000千円

アズフィット株式会社

家庭紙・日用雑貨の卸売、企画販売を行っています。
 紙と不織布に新しい価値や機能性を付加したPB商品を企画し、市場へ積極的に投入しています。



■所在地 東京都府中市矢崎町1-39-1
 ■資本金 100,000千円

日本プラントシーダー株式会社

「シーダー農法」という独自の技術を持ったアグリ事業を展開。野菜や花などの種まきの省力化と効率化を図るシーダーテープに関連したマシンや資材の製造・販売を行っています。



■所在地 東京都中央区日本橋本町4-9-2
 ■資本金 85,000千円

株式会社旭小津

(西部加工センター)
 旭化成せいん(株)との1:1の合弁会社。
 高付加価値製品開発を可能にした不織布の加工および医療用不織布製品の製造を行っている医療機器製造認可工場です。



■所在地 宮崎県延岡市櫛津町3294-1
 ■資本金 20,000千円

株式の状況 (平成22年5月31日現在)

Stock Information

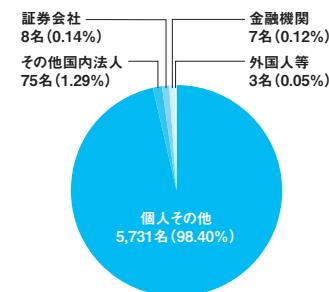
発行可能株式総数	25,000,000株
発行済株式の総数	8,435,225株
株主数	5,824名

大株主(上位10名)

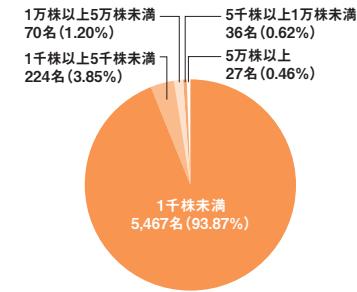
株主名	持株数	持株比率
株式会社小津商店	2,876,076株	34.38%
小津取引先持株会	359,200	4.29
小津産業従業員持株会	203,760	2.44
今井武一	169,821	2.03
別府清一郎	137,790	1.65
日本大昭和板紙株式会社	133,750	1.60
旭化成せい株式会社	117,700	1.41
株式会社みずほ銀行	117,000	1.40
株式会社三井住友銀行	110,000	1.31
池田つま子	96,249	1.15

(注)持株比率は自己株式(69,526株)を控除して計算しております。

株式の所有者別状況(株主数)



株式の所有数別状況(株主数)



会社概要 (平成22年5月31日現在)

Corporate Data

創業	承応2年(1653年)
設立	昭和14年12月6日
資本金	13億2,221万円
従業員数	155名
事業内容	不織布(エレクトロニクス用、メディカル用、コンシューマー用)、洋紙・紙製品などの国内販売・加工、輸出入および野菜の生産販売

事業所	本社/東京都中央区日本橋本町3-6-2 小津本館ビル 〒103-8435 TEL.(03)3661-9400(代表) 東北出張所/中部出張所/大阪支店/九州出張所
-----	---

物流センター	埼玉物流センター
--------	----------

海外事業所	上海駐在員事務所/武漢事務所/香港支店/シンガポール支店
-------	------------------------------

役員

代表取締役社長	中田 範三
常務取締役	山本 行高
常務取締役	長瀬 健治
取締役	今枝 英治
取締役	河田 邦雄
取締役	近藤 聡明
常勤監査役	大穴 孝次
常勤監査役	穴田 信一
監査役	城見 浩一
監査役	松田 繁

執行役員

執行役員	佐藤 功
執行役員	稲葉 敏和
執行役員	山口 和則
執行役員	小林 浩史
執行役員	遠藤 勝美



株主様情報

Shareholder Information

株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会	毎年8月下旬
配当基準日	期末配当 5月31日 中間配当を行うとき 11月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引先の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324(フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	
ご注意	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。	

公告方法 電子公告(<http://www.ozu.co.jp/>)
ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主優待制度のご案内

株主優待制度について

- 株主優待の方法
毎年5月31日現在の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主様に対し、以下の基準により贈呈いたします。
- 優待内容
◆100株以上 ティッシュペーパー、トイレトペーパー 詰合せ2,000円相当
◆500株以上 ティッシュペーパー、トイレトペーパー 詰合せ3,000円相当
- 贈呈時期
定時株主総会後に発送いたします。



株主の皆様のお声を聞かせてください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差しさせていただきます

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7487

いいかぶ 検索 Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、「いいかぶ」と4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。
●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

小津さんぽ



「熙代勝覧（きだいしょうらん）」 絵巻

創業より350余年、老舗としての精神を受け継ぎ、
企業メセナの一環として伝統的な日本文化の啓蒙・継承を実践している
当社グループの活動をご紹介します。

平成21年11月30日(月)、東京都中央区の東京メトロ三越前駅・地下コンコースに、江戸時代の日本橋の町並みを描いた約18メートルにおよぶ「熙代勝覧(きだいしょうらん)」絵巻(複製)が完成しました。

この展示は、「江戸東京・まちなみ情緒の回生事業」の一環として、東京都および中央区の支援を受けて実施されることになりました。日本橋地域の多くの団体がこの事業を支援しており、今回「小津和紙」も紙の選定・提供を通じて、この展示に協力させていただきました。

「熙代勝覧」とは？

「熙代勝覧」絵巻は、庶民文化が華やかに開花した文化期である文化2(1805)年の日本橋通りを描いた作品で、ドイツ・ベルリン国立アジア美術館に所蔵されています。200年前の日本橋、魚河岸、大店、様々な振売りの行商人たちなどの様子が克明に描かれ、歴史的な資料としても非常に貴重な絵巻とされています。

